

紹介

田中和子・木津祐子・谷井陽子編

『北京地図目録』

——清代から民国期に作成された

北京図——』

紹介

本目録は一七世紀以降の清代から、二〇世紀前半の民国期までの北京の地図を収録したものである。収録数は七四八件。内容によってⅠ北京市街全図（城内）——一般図（外国製地図を含む）、Ⅱ北京市街全図（城内）——主題図・区域図、Ⅲ北京市街全図（城内）施設関連図、Ⅳ北京市街および近郊図の4つに分類されている。さらにⅣは（1）一般図、（2）水系・水利図および水害図、（3）軍事・防衛図、（4）路程・路線図、（5）施設図、建設・修復関連図、その他、（6）遊覧図、名勝図、（7）陵墓図の7つに分類されている。本目録の作成は、京都大学所蔵の『北京内城図』の調査が端緒となっている。初期の調査でこの図が八旗の警備施設の分布を詳細に示す「精絵八旗布防図」の系統に属する

ものであることが判明すると、さらに国内外の研究機関における同類の図の所蔵状況について調査が進められた。その成果は、田中和子・木津祐子「京都大学蔵『北京内城図（八旗方位図）』（仮称）」に示される満州・蒙古・漢軍の関連施設とその時代背景」（『京都大学文学部紀要』二〇一五年、五四号）・K. TANAKA, Analysis of the Eight Banners' Disposition on the Three Qing Dynasty Maps of Beijing, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, no. 74, 2016, 等々発表されている。この調査の過程で判明した世界各地の研究機関が所蔵し、あるいは図録・目録が収録する北京地図の情報をまとめたものが本目録である。

本目録は一七世紀から二〇世紀前半までという長期間に、中国人のみならず外国人が作成した地図までも網羅的に収録しているという点に特徴がある。本目録を参照することでのような北京図がどの研究機関に所蔵されているのかを把握することができ、また画像公開されているものに関して

はURLも記されており、研究者の便宜が図られている。北京という都市の発展・変

遷をたどるうえで、本目録が収録する長期間にわたる地図群は多くの情報をもたらしてくれるだろう。本目録のもう一つの特徴は城内の地図のみならず、郊外図や水利図、軍事図、陵墓図など特殊な地図も収録していることである。これらからは城内と郊外の八旗の関連施設が一体化した「北京」という空間の姿が浮かび上がってくる。本目録の「はじめに」では、八旗の警備施設の分布を描いた「精絵八旗布防図」と同類の図が民国期以降も作成され続けていたという事実を指摘しているが、このことは清代から民国への連続性と北京という都市の性質を考える上で極めて重要である。八旗は清朝滅亡後も清室優待条件により中華民国北京政府期も存続し、一九二八年の北京政府の崩壊とともに八旗も完全に解体されるが、それ以前は八旗による北京の警備体制が維持されていたことが民国期の地図からも伺えるのである。

本目録から得られる情報は豊富であり、北京に関連するあらゆる分野の研究者にとって非常に有益なツールとなることは間違いない。

（二〇二〇年三月 二七五頁 丸善出版）

（阿部由美子 税別一五〇〇円）
二松学舎大学非常勤講師